

知れば知るほど奥が深い

# お米作りのきほんの **き**



## ～ レベルアップ編『秋耕』の重要性について～



近年、地球温暖化が増々加速している話をよく耳にしませんか？  
 実は、水田からも温室効果ガスの1つであるメタンガスが排出されています。そこで、水田からの排出を少しでも減らすためにできることの1つが『秋耕』と呼ばれる作業です。  
 今回は、『秋耕』の重要性について知っていきましょう!!

### 温室効果ガスが水田からも出ている?!

温室効果ガスの1つであるメタンガスは、二酸化炭素に比べて約25倍の温室効果があるようです。水田からのメタンは土壌内のメタン生成菌によって大気中に排出され、日本のメタン排出の約40%を占めています。水田での取り組みで大幅な削減ができます。



### 秋耕ってなに?!



「秋耕」は、秋に行う田起こしのこと。

秋耕をすることで、稲わらの分解が進み、水を溜めた後に出てくるガスの発生をおさえます。また、分解のために使用する窒素を使わなくなるので、稲の初期生育がよくなります。他には多年生雑草の抑制、秋落ちの防止にもつながります。

稲わらのすき込みを春から秋に変れば稲わらの分解が進みメタンの発生が約5割減少します。

今年、西予米コンテストで受賞された方の中には、稲刈り後すぐに田起こしをされた方もいました。

### 秋耕の時に一緒に稲わらを腐熟させる資材を施用すると圃場にも良く、環境にも良いので是非使用してはいかがでしょうか？

#### 石灰窒素



- 秋に散布する「石灰窒素」は、稲わらに窒素成分を補給、石灰分の効果で稲わらをやわらかくさせて、微生物の活性化を促し、腐熟させます。(20kg/10a)
- 使用方法は稲刈り後に石灰窒素を散布後浅く耕起することで稲ワラが腐熟しやすくなります。

#### 根友G



「根友G」には様々な菌が入っており、稲わらやその他の残渣が分解されて春の水張時にワラが浮き上がらず、硫化水素を分解し、ガス害を減らします。

- 初期生育の向上・根量の増加・有効茎の増加・茎が丈夫になり粒数増加
- 使用方法は稲刈り後から田植え前までに20～40kg散布して耕起

今年の秋耕ができていない農家は、少しでも分解が早まるので田を起こしましょう！  
 2023年産の栽培指針には、「秋耕」について記載していますのでなるべく秋に実施してください。

